

県北空き家再生プロジェクト

分野：課外活動、地域交流

代表者：工学部都市システム工学科 4年 鎌田 吉紀

連携先

日立市役所
茨城県建築士会日立支部

顧問教員

熊澤貴之

参加者

都市システム工学科 4年 鎌田吉紀
同 3年 飯塚柊斗
同 4年 草間裕介
同 4年 平野史也
同 4年 中根央喜
同 4年 斎藤司
同 4年 長谷川広樹
同 3年 竹内美玖
同 3年 谷垣陸
同 3年 石森未貴
同 3年 工藤みちる
同 2年 加藤桃佳
同 2年 千田七海
同 2年 江口修平
同 2年 原野大河

プロジェクトの概要

全国的にも問題となっている空き家問題だが、日立市も例外ではない。本プロジェクトでは対象の空き家を「学生のシェアハウス」+「地域交流施設」として改修することで地域と大学の接点をつくる。また、シェアハウスとして収益化することで固定資産税を賄いつつ、最終的に解体の費用を支払えるよ

うにし、所有しているだけで負の財産となってしまう空き家に新たな価値を与え、その終わりまで考える、真の意味での再生を目指すことを目的としている。

プロジェクトの成果報告

対象の空き家を「学生のシェアハウス」+「地域交流施設」として使用するにあたり、周辺住民の方にご挨拶と空き家プロジェクトの周知を主な目的として、対象の空き家でイベントを開催した。以下に詳細を述べる。

〈OP イベント〉

日時：12月26日（水） 12時～14時

場所：対象の空き家

日立市西成沢町3丁目11-2

概要：改修を終えた対象の空き家を開放し、お披露目会を行った。具体的には、豚汁を振舞いながら空き家の内装、本プロジェクトの活動紹介を行った。

参加人数：約40人（学生メンバー7人、運営・関係者8人、地域の方々約25人）





OP イベント写真

〈施工イベント〉

日時：1月13（日）、14日（月）

場所：対象の空き家（所在地は OP イベント詳細参照）

概要：周辺住民やメンバー外の学生と一緒に建築士会のご指導を受けながら、空き家に付随するベンチ、家の中で使用するテーブルをデザイン、作成、塗装までを行った。

参加人数：1日目ー参加人数8人（大工さん3人、メンバー2人、メンバー外学生3人）

2日目ー参加人数8人（大工さん3人、メンバー2人、高校生2人、メンバー外学生1人）

○成果

- ・本プロジェクトの周知

今回のイベント（特に OP イベント）では、多くのメディアに取り上げてもらえ、本プロジェクトの存在が周辺地域だけではなく、多方面に周知することが出来た。それに伴い、空き家問題が改めて周知され、それぞれが考え直すきっかけとなり、空き家問題の解決に、微力だが貢献できたのではないかと感じる。

- ・周辺住民を巻き込んだまちづくり

イベントに参加した方々にお話を聞くと、「地域に入ってくれるのは嬉しい」や「イベントは食事会などがいいのではないか」、「ここ以外の空き家も回収して行ってほしい」など、今後の空き家の在り方、空き家を取り巻く周辺地域についてご意見を頂くことができた。普段、市民の声を行政に届ける機会や市民同士でまちについて話すことはあまりない。この空き家が市民と行政、市民と市民をつなげる媒体となり、まちづくりの拠点となるのではないかと感じた。

- ・様々な人との交流

本プロジェクトを通し、日立市役所さん、建築士会日立支部さん、茨城県青少年育成協会さん、市民のみなさんと多くの方々と関わり、交流することが出来た。メンバーである学生はほとんどが県外出身者であり、日立にきて2～3年のものが多い。そんなメンバーでも本プロジェクトを通し、様々な人と交流を深めることで、日立という土地に愛着をもつことができた。また、地域の方々にも学生が実際に活動していることを見てもらうことで、地域の活性化を促すことが出来たのではないかと感じた。



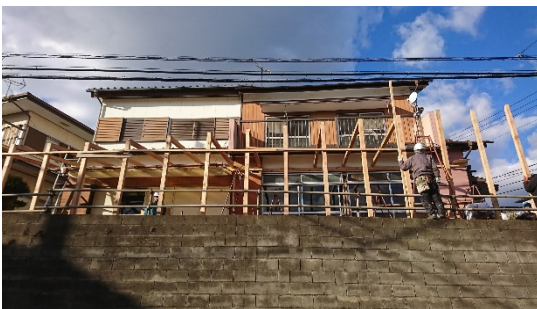
メディア情報は
Web 記事

<https://mainichi.jp/univ/articles/20190104/org/00m/100/011000c>

- ・茨城新聞
- ・NHK 水戸いば6
- ・@niftyNEWS
- ・大学 HP

<http://www.ibaraki.ac.jp/commit/2019/01/072013.html>

- ・IBS(茨城放送)12/29
- ・j-way1/3



施工イベント写真

本プロジェクトは、昨年は調査，設計
今年は設計，施工，イベント を行うことが
できた。来年以降は，イベント，運用，を考
えていきたい。空き家問題についてさらに
考えていくことと，地域の場づくりを並行
し，来年以降もこの拠点から発信，活動をし
ていきたい。